

① 教職員・生徒・保護者の三者による評価の活用

山口県立徳山高等学校

徳山高校では、平成9年度から教職員による「学校運営の評価アンケート」を実施してきた。内容及び形式を改善しながら過去6年間実施してきた経緯から、平成14年9月に「学校の評価システムに関する実践協力校」の指定を県教育委員会から受け、平成15年から実践に取り組んできた。

取組みに当たっては、これまでの教職員による「学校運営の評価アンケート」に加え、生徒及び保護者による外部評価を実施することで、教職員・生徒・保護者による三者の学校評価を体制化し、教育の質の充実・改善及び学校に対する信頼性の向上に資することを目的として実施した。

1 取組みの概要（平成15年～16年）

【平成15年】

- 1月 学校評価推進委員会（企画運営委員会と兼ねる）
- ・来年度当初、評価ワーキングチームを設置して、教職員による「学校運営の評価について」アンケート事項の見直しを図ることとした。

教職員による「学校運営の評価について」のアンケート実施

- 2月 学校評価推進委員会及び職員会議
- ・アンケートの集約結果を報告し、共通認識を図った。
- 3月 「保護者のための徳高便覧 学校理解のために - 」の作成
- ・保護者による学校評価を実施する前提となる情報提供の一環として保護者全員に配布した。
- 学校評価推進委員会
- ・次年度の取組みについて検討した。
- 4月 学校評価推進委員会・職員会議
- ・学校改善のための評価計画について説明し、共通認識を図った。
 - ・生徒による「学校生活評価アンケート」項目検討のための「学校評価ワーキングチーム」の設置について協議し、「ワーキングチーム」メンバーを選定した。
- 5月 第1回「学校評価ワーキングチーム」会議
- ・学校評価の目的及び教育目標を確認し、アンケート項目について検討した。
- 6月 第2回「学校評価ワーキングチーム」会議
- ・評価項目と教育目標・チャレンジ目標との関連、評価項目の原案作成等の分担、公表方法など、今後の取組みについて協議した。

- 7月 第3回「学校評価ワーキングチーム」会議
他県先進校視察
- 8月 第4回「学校評価ワーキングチーム」会議
第5回「学校評価ワーキングチーム」会議
・生徒によるアンケート（案）の構成及び内容について検討した。
学校評価推進委員会・職員会議
・生徒によるアンケート（案）についての共通認識を図った。
- 10月 生徒による「学校生活評価アンケート」実施（各学年3クラス）
職員会議
・生徒によるアンケートの集計結果（グラフと自由記述の集約）を示しながら報告し、改善に力を入れるべき項目について協議した。
- 11月 全校集会
・生徒に対して、アンケートの集計結果の分析概要について説明した。
第6回「学校評価ワーキングチーム」会議
・評価結果の公表内容・公表範囲・公表方法等、保護者によるアンケートの年度内実施に向けての取組み・日程等について協議した。
- 生徒による「学校生活評価アンケート」結果の保護者への公表
学校評議員に「学校生活評価アンケート」の集計結果を報告した。

【平成16年】

- 1月 PTA常任委員会
・「学校生活評価アンケート」の結果及び今後の取組みについて説明した。
第7回「学校評価ワーキングチーム」会議
・保護者による「学校評価アンケート」内容について検討した。
- 2月 第8回「学校評価ワーキングチーム」会議
・保護者による「学校評価アンケート」の項目及び内容について検討した。
学校評価推進委員会及び職員会議
・保護者による「学校評価アンケート」の原案について協議し、共通認識を図った。
学校評議員会
・学校評価についての取組みを報告した。

保護者による「学校評価アンケート」実施

- 3月 教職員による「学校運営の評価アンケート」実施

保護者による「学校評価アンケート」結果の公表

- 5月 職員会議
・教職員による「学校運営の評価アンケート」の集計結果について報告し、共通認識を図った。

2 評価体制

(1) 学校評価推進委員会 (21名：企画運営委員会メンバーが兼任)

校長、教頭(全日・定時)、事務長、各分掌の長(総務・教務・生徒・教育相談・進路指導・図書視聴覚・厚生・保健体育・情報企画の各部)、保健主任、各学年主任、理数科主任、事務主査、男女若手代表

(2) 学校評価ワーキングチーム (9名)

学校評価ワーキングチームは各分掌からの選出であると同時に、各教科・年代等のバランスも考慮して決定された。推進委員会及び職員会議での意見をふまえ、ワーキングチームを中心としてアンケート項目の検討・計画・実施がなされた。

教頭2名(全日・定時)
総務・教務・生徒・教育相談・進路指導・理数科・定時制から各1名

3 評価項目及び評価基準の設定

(1) 生徒による「学校生活評価アンケート」……………【資料1】

本校の教育目標・教育方針を基に具体的な努力目標や教育活動を念頭に置きながら、以下の内容について項目の検討を行った。

教務的な内容	……………	授業、教育課程にかかわる項目
生徒指導的な内容	……………	校則・きまり等にかかわる項目
特別活動的な内容	……………	部活動、生徒会活動、学校行事等にかかわる項目
進路指導的な内容	……………	進路情報、課外授業、模擬試験等にかかわる項目
教育相談的な内容	……………	人権、悩みの相談にかかわる項目
その他	……………	学校全体、学校設備、環境美化にかかわる項目

上に示した領域・観点に基づき、具体的な質問項目を作成した。その際、なるべく具体的で分かりやすい表現を心がけた。例えば、「本校には他にはない特色があり……」というような表現では何が特色なのかが分かりにくいため、具体的に行事・進学等の内容を挙げて質問することとした。また、質問は、学校全体の状況をつかむために、生徒個人のことではなく生徒全体の状況を問う形にしてある。そのため質問の多くは主語を「徳高生は……」という表現に統一した。

評価項目は、回答しやすいように、「学校全体にかかわること」「授業にかかわること」「進路にかかわること」「生徒指導にかかわること」「特別活動にかかわること」「教育相談にかかわること」「学校設備・環境美化にかかわること」の順に内容的にまとめて配列した。以下の保護者による「学校評価アンケート」についてもほぼ同様である。

(2) 保護者による「学校評価アンケート」……………【資料2】

生徒による「学校生活評価アンケート」の項目とほぼ対応させ、保護者向けに内容を改めるとともに、保護者会の実施、PTA活動、「保護者のための徳高便覧」にかかわる項目を追加して設定した。

また、自由記述欄を設け、「本校のよいところ」についての記入欄をお願いした。

(3) 教職員による「学校評価アンケート」【資料3】

平成9年度より「学校運営の評価について」のアンケートとして実施してきたが、平成16年10月には生徒との比較をするために、生徒による「学校生活評価アンケート」の項目と同じ内容で、教職員にアンケートを実施した。

(4) 評価基準の設定

評価基準は以下のとおりであるが、「E よく分からない」を入れた方が、無記入になるよりも質問に対してよく考えて答えることができると判断した。また、「E よく分からない」が多い項目は質問自体に問題があり、次回の項目設定の参考になると思われる。具体的な数値目標等については今後の検討課題である。

A よくあてはまる	B ややあてはまる	C あまりあてはまらない
D 全くあてはまらない	E よく分からない	

4 評価結果の公表・情報提供

(1) 生徒による「学校生活評価アンケート」結果の公表【資料4】

それぞれの項目について、前年度との比較をグラフ化したものを付け加えて、保護者を対象に結果を公表した。

(2) 保護者による「学校評価アンケート」結果の公表【資料5】

生徒による評価結果の公表と同様の方法で公表を行った。昨年度は自由記述欄に記入してあった主な内容をまとめて公表したが、本年度は生徒による評価結果及び保護者による評価結果の総括の部分で主なものだけを公表した。

(3) 教職員による「学校評価アンケート」結果の公表【資料6】

生徒による評価と教職員による評価との比較を各項目ごとにグラフ化して教職員に報告するとともに、学校評議員に対しても公表を行う予定である。今後は、保護者への公表内容及び公表方法について検討していきたい。

5 評価結果に基づいた学校運営の充実・改善

平成15年度の学校評価（生徒・保護者・教職員）の結果を今後の学校運営に生かすために、改善に向けての重点目標の設定を行った。設定に当たっては、学校評価ワーキングチームで結果の分析及び課題の洗い出しを行い、その分析結果を基に学校評価推進委員会及び職員会議で検討した（資料7）。その後、全教職員の共通認識の下で、次のような学校改善・改革に向けた4つの重点目標を設定した。

重点目標	中心となって取り組む分掌等
分かる授業の一層の実現	各教科・各分掌＝全教員
進学校としての更なる取組み	進路指導課（主管分掌）
保護者への積極的な情報発信	総務課・情報企画課
学習環境の整備	校長・教頭・事務長・厚生課

さらに、関係する各課・分掌が中心となって、重点目標達成のための具体的取組みを設定した。年度末には、これらの具体的取組みの達成状況について自己評価を実施したい。

重点目標	具体的取組み
分かる授業の一層の実現	<ul style="list-style-type: none"> 各教科での授業研究、一部教科での授業アンケートの実施 全校的な授業アンケート実施の検討 授業公開についての検討
進学校としての更なる取組み	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路希望を実現する取組みの充実 進学チャレンジプランの推進（面談月間の設定、課外授業の充実、教員の研修会への積極的参加）
保護者への積極的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 「クリック徳高（中学校への情報発信）」のホームページへの掲載 『保護者のための徳高便覧』の充実
学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 校舎内のPタイルの補修等 生徒会・厚生委員会を中心とした校内美化への積極的取組み

6 学校評価の実施による成果と課題

(1) 実施による成果

- ア 教職員の共通認識の下で、生徒及び保護者による外部評価を実施できたことは大きな成果であった。教職員の共通認識なしに実施しても、根付いたものにはならないと考える。
- イ 学校の充実・改善のために学校評価が効果的な役割を果たすことができるという教職員の認識が高まった。
- ウ 各評価、アンケート等により、本校における成果や課題等が一層明確になり、重点課題の洗い出しに有効であった。

(2) これからの課題と改善方針

- ア 重点目標達成のための実践的取組みをより具体的に設定し、学校の充実・改善を図っていききたい。
- イ 生徒及び保護者による外部評価と教職員による自己評価を合わせて学校改善に活かしていくシステムを確立するために、評価結果の分析・診断の方法について検討していききたい。
- ウ 教職員だけでなく保護者や学校評議員等と共に改善策を検討するなど、課題の共有化に努め、より一層連携を深める必要がある。また、地域住民による外部評価の実施について検討していききたい。
- エ 公開授業の在り方、授業評価の内容及び実施方法等について、さらに具体的に研究を深めていききたい。

【資料1】

学校生活評価アンケート(生徒用)

平成16年10月6日
山口県立徳山高等学校

この調査は、生徒の皆さんの学校生活をより充実したものにし、学校をさらによくしていくための資料を得るために実施するものです。あとの質問について、皆さんが平素どのように感じているか、素直に回答してください。

回答は、あなたの気持ちに最も近いものを、1～5から選び 印を付けてください。

- | | | | |
|---|------------|---|-----------|
| 1 | よくあてはまる | 2 | ややあてはまる |
| 3 | あまりあてはまらない | 4 | 全くあてはまらない |
| 5 | よく分からない | | |

番号	質 問 項 目	1	2	3	4	5
1	徳高生は本校を選んでよかったと思っている。					
2	本校は学力向上をめざして、積極的に取り組んでいる。					
3	教え方が工夫されていて授業が分かりやすい。					
4	徳高生は授業に意欲的に取り組んでいる。					
5	60分授業は効果的である。					
6	総合的な学習の時間(魁講座を含む)の内容は適切である。					
7	コース・科目選択の指導は適切にされている。					
8	進路情報の提供が適切にされている。					
9	進路に関する個人面談が十分に実施されている。					
10	模擬試験が適切に計画・実施されている。					
11	課外授業が適切に実施されている。					
12	校則やきまりは妥当である。					
13	徳高生は校則やきまりを守っている。					
14	教員は生徒が基本的な生活習慣や社会のルール・日常生活のマナーを身に付けられるよう指導している。					
15	クラスマッチ・運動会・徳高祭などの学校行事が充実している。					
16	生徒会活動が活発である。					
17	部活動が盛んな学校である。					
18	悩みや困ったことがあったとき、先生に相談することができる。					
19	人権の大切さを学び、それが日常生活に活かされている。					
20	学校内の掃除が行き届いている。					
21	徳高生はゴミの分別をきちんとしている。					
22	校内の施設・設備は、健康で安全な生活がしやすいようによく整備されている。					

学校をよりよくしていくために、こうすればよいという意見があればできるだけ具体的に書いてください。

本校のよいところがあれば具体的に書いてください。

【資料2】

学校評価アンケート(保護者用)

平成16年10月4日

山口県立徳山高等学校

平素から本校教育の推進につきましては、御理解と御協力をいただき感謝いたしております。さて、この調査は、徳山高校をより充実したものにし、学校をさらによくしていくための資料を得るために実施するものです。あとの質問について、保護者の皆様が平素どのように感じておられるか御回答ください。それぞれの項目について、1～4のうち該当するものに印をお付けください。どうしても判断できない(よく分からない)場合は5に印をお付けになってかまいません。

10月5・6日の2日間で、担任に御提出くださるよう御協力をお願いいたします。

- | | | | |
|---|-----------------|---|-----------|
| 1 | よくあてはまる | 2 | ややあてはまる |
| 3 | あまりあてはまらない | 4 | 全くあてはまらない |
| 5 | 判断できない(よく分からない) | | |

番号	質問項目	1	2	3	4	5
1	徳高に子どもを進学させてよかったと思っている。					
2	徳高は学力向上をめざして、積極的に取り組んでいる。					
3	徳高生は学習に意欲的に取り組んでいる。					
4	隔限60分授業は評価できる。					
5	コース・科目選択の指導は適切にされている。					
6	保護者会は適切に実施されている。					
7	進路情報の提供が適切にされている。					
8	模擬試験が適切に計画・実施されている。					
9	課外授業が適切に実施されている。					
10	校則やきまりは妥当である。					
11	徳高生は校則やきまりをおおむね守っている。					
12	徳高では生徒が基本的な生活習慣や社会のルール・日常生活のマナーを身に付けられるよう指導されている。					
13	クラスマッチ・運動会・徳高祭などの学校行事が充実している。					
14	生徒会活動が活発である。					
15	部活動が盛んな学校である。					
16	悩みや困ったことがあったとき、先生に相談することができる。					
17	徳高はゴミの分別など、環境美化に取り組んでいる。					
18	施設・設備は、健康で安全な生活がしやすいように整備されている。					
19	保護者・教職員はPTA活動に協力的である。					
20	「保護者のための徳高便覧」は役立っている。					

学校をよりよくしていくために、こうすればよいという意見があればできるだけ具体的に書いてください。

本校のよいところがあれば具体的に書いてください。

【資料3】

学校評価アンケート(教職員用)

平成16年10月4日

山口県立徳山高等学校

この調査は、生徒の学校生活をより充実したものにし、学校をさらによくしていくための資料を得ることを目的として実施するものです。あとの質問について、先生方が平素どのように感じているか、率直に御回答ください。

回答は、1～5から選び 印を付けてください。

1	よくあてはまる	2	ややあてはまる
3	あまりあてはまらない	4	全くあてはまらない
5	よく分からない		

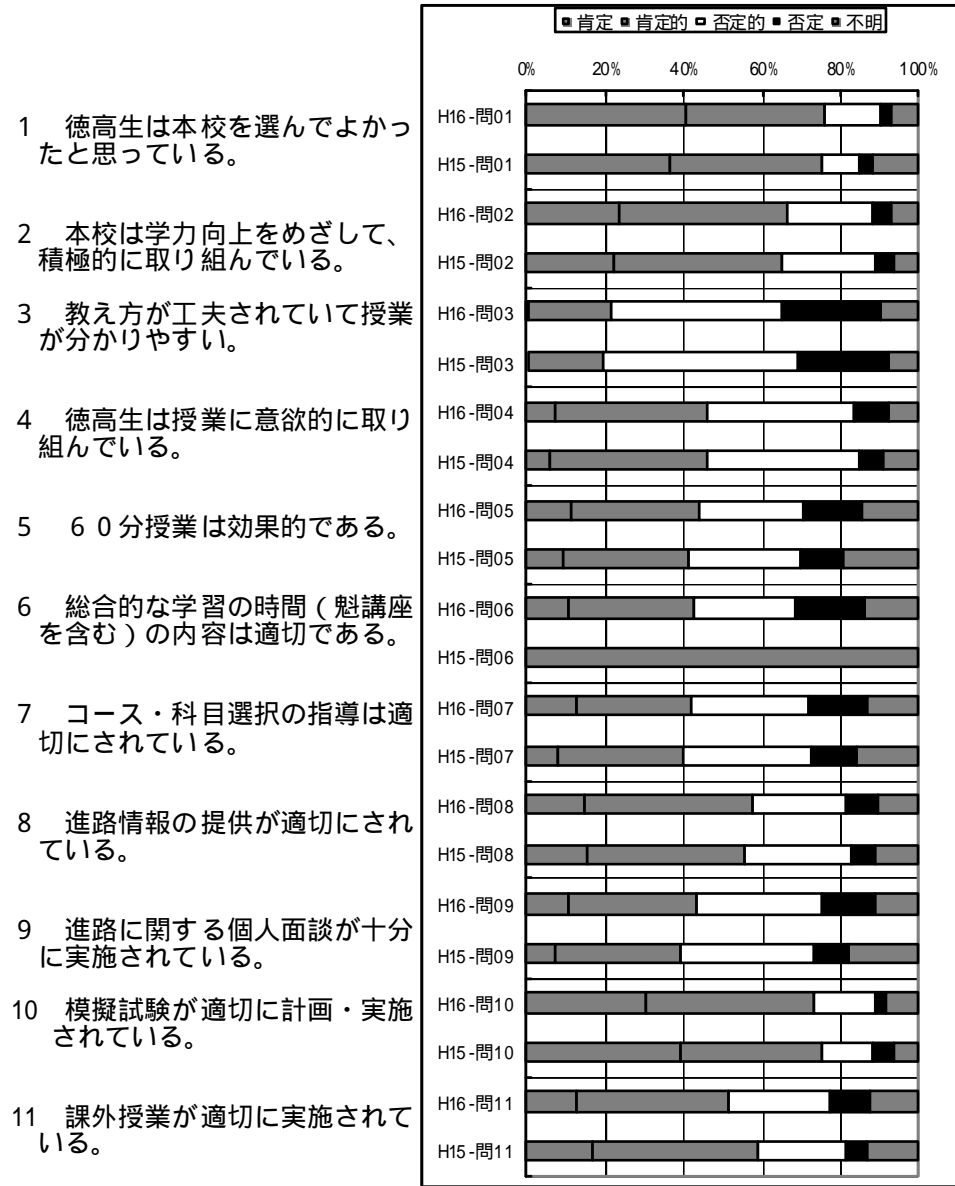
番号	質 問 項 目	1	2	3	4	5
1	徳高生は本校を選んでよかったと思っている。					
2	本校は学力向上をめざして、積極的に取り組んでいる。					
3	教え方を工夫し、授業が分かりやすくなるよう努力している。					
4	徳高生は授業に意欲的に取り組んでいる。					
5	60分授業は効果的である。					
6	総合的な学習の時間(魁講座を含む)の内容は適切である。					
7	コース・科目選択の指導は適切にされている。					
8	進路情報の提供が適切にされている。					
9	進路に関する個人面談が十分に実施されている。					
10	模擬試験が適切に計画・実施されている。					
11	課外授業が適切に実施されている。					
12	校則やきまりは妥当である。					
13	徳高生は校則やきまりを守っている。					
14	教職員は生徒が基本的な生活習慣や社会のルール・日常生活のマナーを身に付けられるよう指導している。					
15	クラスマッチ・運動会・徳高祭などの学校行事が充実している。					
16	生徒会活動が活発である。					
17	部活動が盛んな学校である。					
18	生徒は悩みや困ったことがあったとき、先生に相談している。					
19	生徒は人権の大切さを学び、それが日常生活に活かされている。					
20	学校内の掃除が行き届いている。					
21	徳高生はゴミの分別をきちんとしている。					
22	校内の施設・設備は、健康で安全な生活がしやすいようによく整備されている。					

学校をよりよくしていくために、こうすればよいという意見があればできるだけ具体的に書いてください。

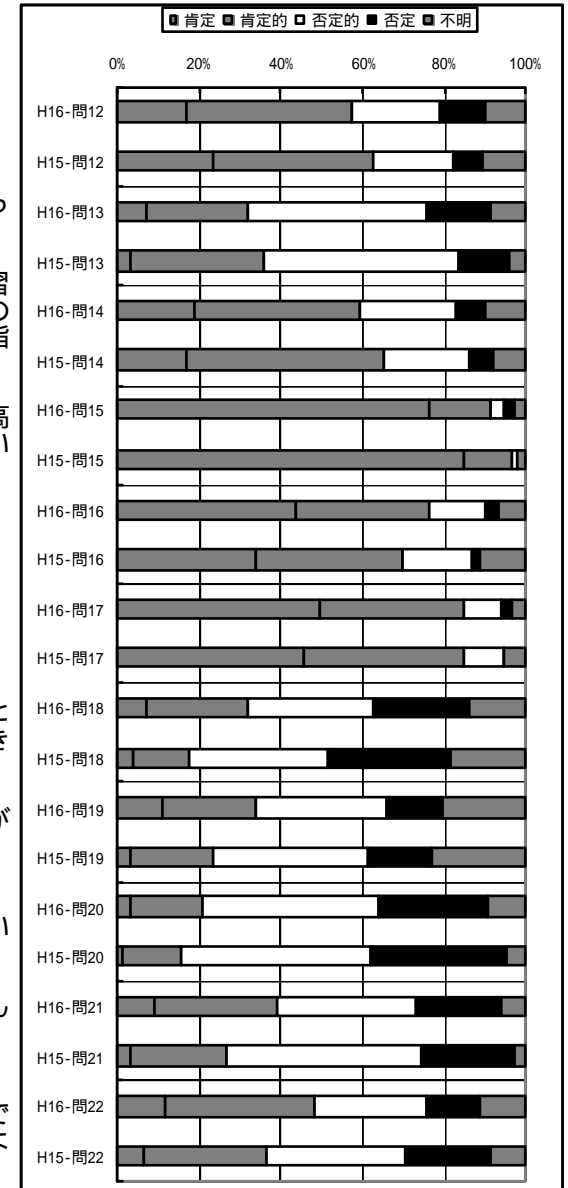
本校のよいところがあれば具体的に書いてください。

【資料 4】

生徒による「学校生活評価アンケート」結果（H15年度とH16年度との比較）

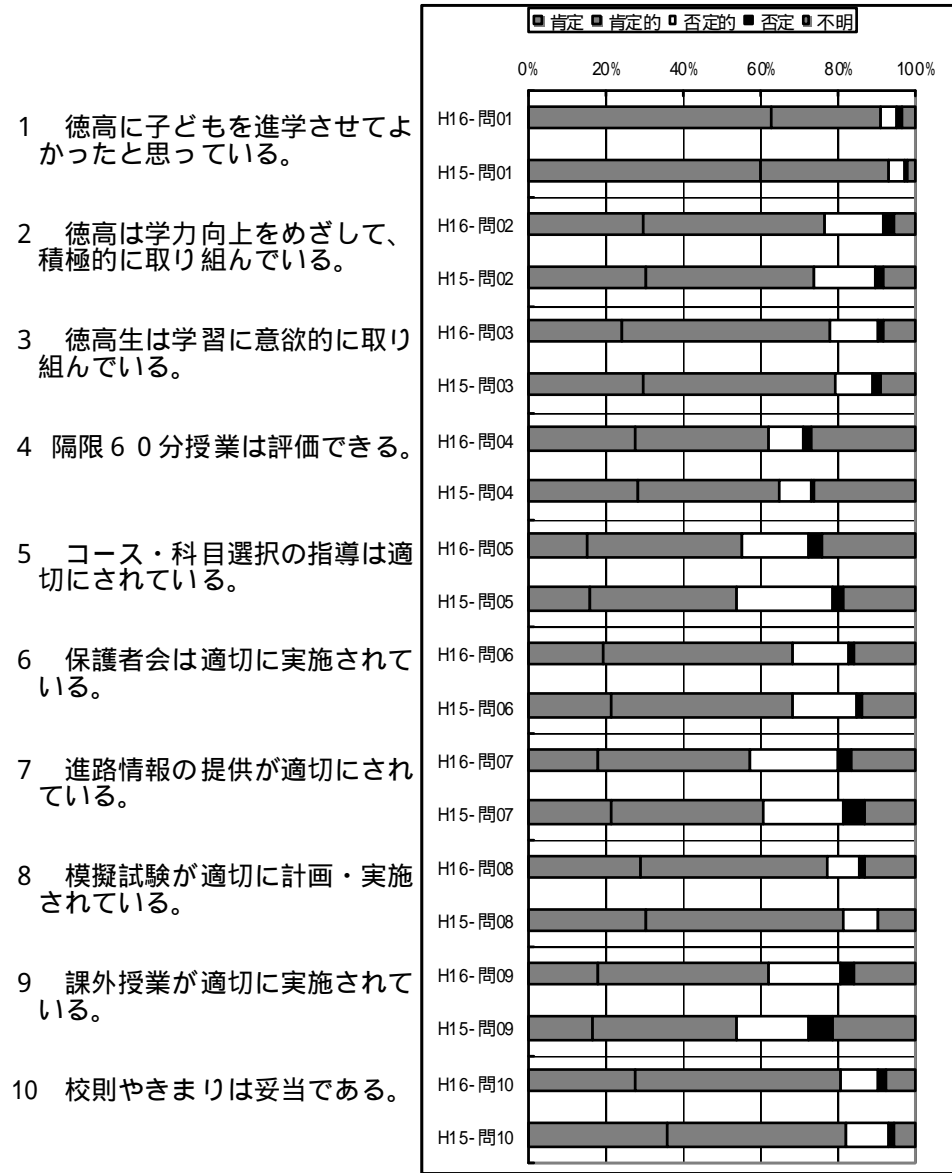


- 12 校則やきまりは妥当である。
- 13 徳高生は校則やきまりを守っている。
- 14 教職員は生徒が基本的な生活習慣や社会のルール・日常生活のマナーを身に付けられるよう指導している。
- 15 クラスマッチ・運動会・徳高祭などの学校行事が充実している。
- 16 生徒会活動が活発である。
- 17 部活動が盛んな学校である。
- 18 悩みや困ったことがあったとき、先生に相談することができる。
- 19 人権の大切さを学び、それが日常生活に活かされている。
- 20 学校内の掃除が行き届いている。
- 21 徳高生はゴミの分別をきちんとしている。
- 22 校内の施設・設備は、健康で安全な生活がしやすいようによく整備されている。

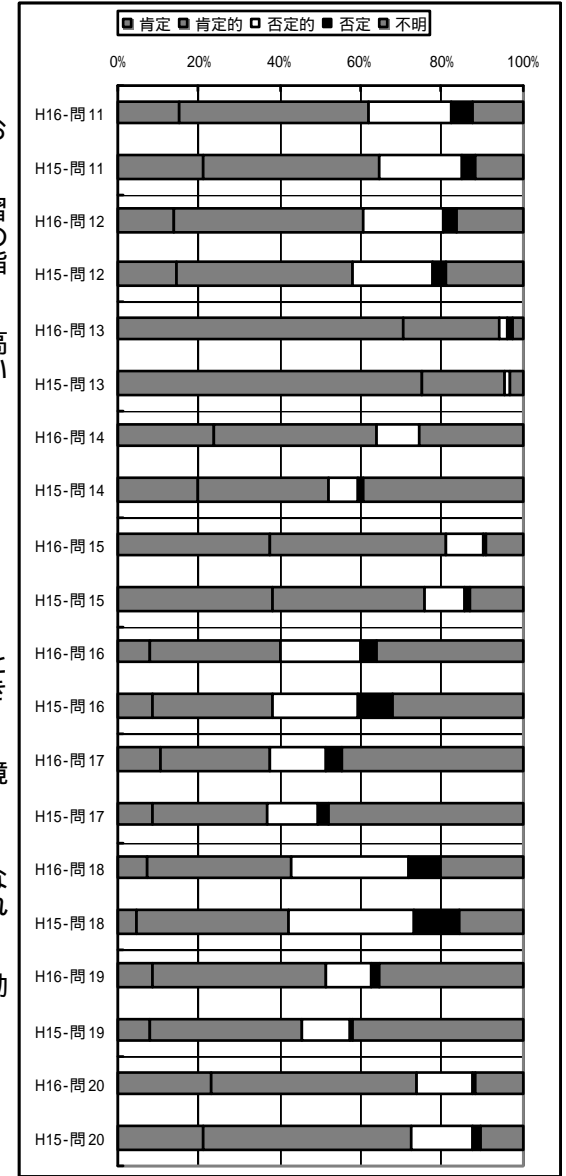


【資料5】

保護者による「学校生活評価アンケート」結果（H15年度とH16年度との比較）



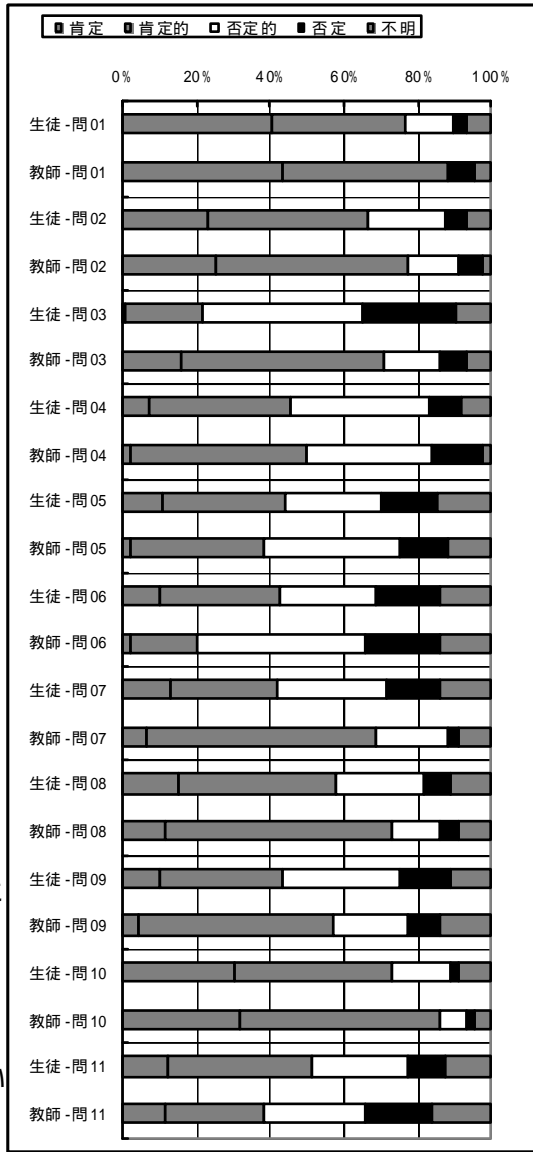
- 11 徳高生は校則やきまりをおおむね守っている。
- 12 徳高では生徒が基本的な生活習慣や社会のルール・日常生活のマナーを身に付けられるよう指導されている。
- 13 クラスマッチ・運動会・徳高祭などの学校行事が充実している。
- 14 生徒会活動が活発である。
- 15 部活動が盛んな学校である。
- 16 悩みや困ったことがあったとき、先生に相談することができる。
- 17 徳高はゴミの分別など、環境美化に取り組んでいる。
- 18 施設・設備は、健康で安全な生活がしやすいように整備されている。
- 19 保護者・教職員はPTA活動に協力的である。
- 20 「保護者のための徳高便覧」は役立っている。



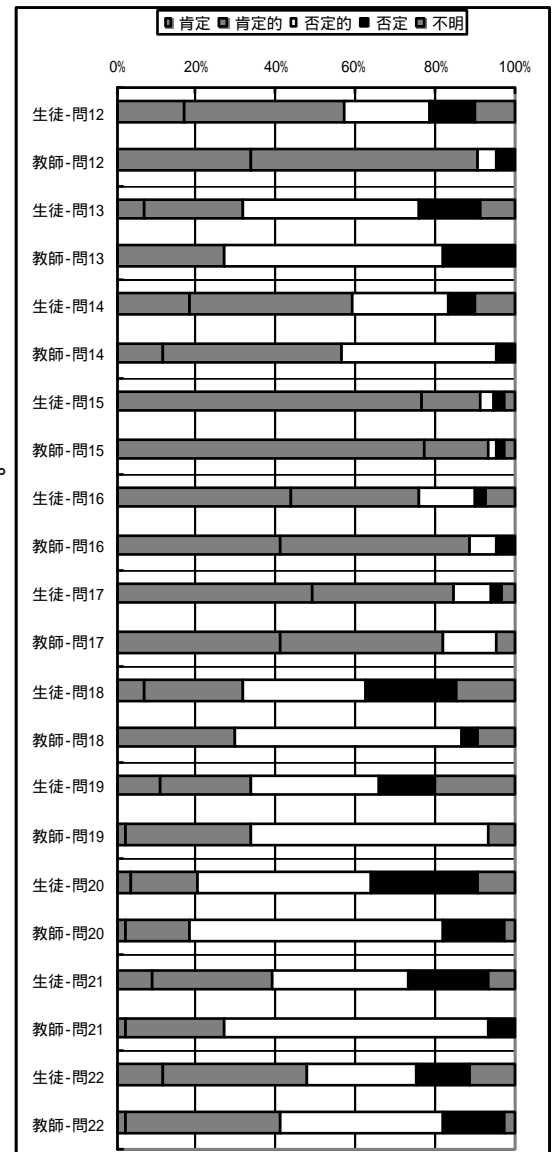
【資料6】

生徒による評価と教師による評価との比較 (H16年度)

- 1 徳高生は本校を選んでよかったと思っている。
- 2 本校は学力向上をめざして、積極的に取り組んでいる。
- 3 教え方が工夫されていて授業が分かりやすい。
- 4 徳高生は授業に意欲的に取り組んでいる。
- 5 60分授業は効果的である。
- 6 総合的な学習の時間(魁講座を含む)の内容は適切である。
- 7 コース・科目選択の指導は適切にされている。
- 8 進路情報の提供が適切にされている。
- 9 進路に関する個人面談が十分に実施されている。
- 10 模擬試験が適切に計画・実施されている。
- 11 課外授業が適切に実施されている。



- 12 校則やきまりは妥当である。
- 13 徳高生は校則やきまりを守っている。
- 14 教職員は生徒が基本的な生活習慣や社会のルール・日常生活のマナーを身に付けられるよう指導している。
- 15 クラスマッチ・運動会・徳高祭などの学校行事が充実している。
- 16 生徒会活動が活発である。
- 17 部活動が盛んな学校である。
- 18 悩みや困ったことがあったとき、先生に相談することができる。
- 19 人権の大切さを学び、それが日常生活に活かされている。
- 20 学校内の掃除が行き届いている。
- 21 徳高生はゴミの分別をきちんとしている。
- 22 校内の施設・設備は、健康で安全な生活がしやすいように、よく整備されている。



【資料7】

学校評価について(報告)

山口県立徳山高等学校

1 アンケート結果のまとめ

	良い評価	厳しい評価	気付き・自由記述欄から
生徒の評価	学校行事が充実 部活動が盛ん 本校を選んでよかった 模擬試験が適切に実施 学力向上をめざして取り組んでいる	授業が分かりやすい 悩みを先生に相談できる 校内の掃除・ゴミの分別 人権教育が活かされている 校則の遵守	ほとんどの項目で2年生(現3年生)の評価が厳しい コース・科目選択の指導では2・3年生が厳しい評価 自由記述では施設・設備の改善を望む意見が多い
保護者の評価	学校行事が充実 徳高に進学させてよかった 校則やきまりが妥当 部活動が盛ん 模擬試験が適切に実施 徳高生は学習に意欲的 学力向上をめざして取り組んでいる	施設・設備が整備されている 悩みを先生に相談できる コース・科目選択の指導 「判断できない」が多い項目 ゴミの分別・環境美化 保護者・教員はPTAに協力的 生徒会活動が活発である	1・2年生で差はない 教員の質等に関する記述(22) 授業に関する記述(27) 生徒同士の人間関係がよい(14) 学校はもっと情報発信をすべきである(6)
教職員の評価	生徒は学校生活を生き生きとして送っている 問題行動に対する体制が整備 人権尊重の生徒指導 事故等に対応できる役割分担 教育活動は生徒・保護者の要望に応えようとしている	他の教員の授業を見学する機会 施設・設備の学習環境 教職員のPTA活動への積極的な参加 近隣中学校との交流・連携 保護者の学校行事への積極的な参加 60分授業にかかる工夫・改善	回収率が低い(56.8%) 進学校として特色を出す

2 重点目標

分かる授業の一層の実現
進学校としての更なる取組み(生徒の進路希望を実現する取組み)
保護者への積極的な情報発信
学習環境の整備

3 アンケート相互の関係(生徒・保護者・教員によって評価が違っている項目)

徳高生は授業に意欲的(生徒46%) 徳高生は学習に意欲的(保護者79%)
徳高生は校則やきまりを守っている(生徒35%) おおむね守っている(保護者64%)
生徒会活動が活発である(生徒70%) (保護者52%)
悩みを先生に相談できる(生徒15% 保護者38%) 生徒の悩みに親身に対応している(教員88%)

② 外部評価結果の公表の工夫

山口県立柳井高等学校

1 取組みの概要

(1) 評価の実施時期及び評価体制

本校では、平成15年度から実践協力校として、学校評価の実践に取り組んできた。

平成15年度は、10月に生徒及び保護者、教職員による学校評価を各1回実施したが、平成16年度は、2学期制の前期末(9月)及び後期末(2月)の2回実施することにより学校運営の充実・改善を図ることとした。

評価の実施に当たっては、学校評価検討委員会(委員11名)により計画・立案し、運営委員会、職員会議で検討した。

また、学校評議員会において評価結果を示し、意見聴取等を行った。

(2) 評価項目及び評価基準

評価項目は、教育方針、学習指導、生徒指導、進路指導、特別活動、教育相談、設備・環境等について、それぞれ重点項目を設定し、具体的な内容となるよう設定した。

平成16年度前期は、前年度と比較して取組みの改善状況を把握するため、平成15年度に実施した内容を踏襲したものとし、生徒については26項目、保護者については23項目、そのうち共通項目を21項目設定した。また、評価項目以外についての意見・要望等を記入する自由記述欄を設けた。

平成16年度後期は、前期の評価結果を検討して、評価項目を精選して実施することとしているが、教職員については、前期では主に校内体制や取組みについて評価を行い、後期では各課、学年等の各分掌の目標について評価を実施することとしている。

また、評価基準については、評価の傾向を把握しやすくするために4段階の評価とし、無記名で実施した。(生徒及び保護者用評価表をP.98~99に掲載)

(3) 評価結果の公表・情報提供

保護者及び生徒による評価結果については、本校の発行している学校だより「柳高通信」で保護者に公表するとともに、本校のホームページにも掲載し、公表した。

評価結果について、A及びBのプラス評価を左軸に、C及びDのマイナス評価を右軸にグラフで示すとともに、意見・要望等について、学習指導、進路指導、生徒指導、学校生活全般、その他の5項目についてまとめたものを公表した。(資料1)

(4) 評価結果に基づいた学校運営の充実・改善

平成16年度前期学校評価では、保護者からの回答回収率が昨年の54%から62%に伸び、学校への関心度が高くなっていることがうかがえる。

プラス評価であるA+Bの回答は、保護者対象では全質問事項の平均が69%と高い評価を受けたが、生徒対象ではA+Bの回答が平均60%とやや低くなった。

保護者からの評価が低かった「教育相談」、「地域文化・芸術鑑賞」、「施設・設備の整備」

グラフによる評価結果の公表



保護者からの意見や要望

(1) 学習指導について

質問しやすい雰囲気をつくって欲しい。
先生に生徒の学力を上げようとする努力が足りない。
「分かる授業」「魅力ある授業」の努力を。
先生方は良く指導している。生徒は柳高に入学したことで安心してしまっているのでは。
2年生での文・理系の変更は可能か。
宿題に時間をとられ、自分の勉強時間がなくなる。宿題を多く出さないように
土曜日もしっかり学校で勉強できればよい。

(2) 進路指導について

いろいろな分野で活躍している人の体験談などにふれる機会をつくって欲しい。

(3) 生徒指導について

生徒を信じ、自主性を育てて欲しい。
校外で服装の乱れが目につく。
スカート丈の短い生徒がとても多い。
化粧や、髪型、服装が乱れている。品性がなくなったように思う。
女子トイレに入るとがっかりするようなマナーである。

(4) 学校生活全般について

部活動との両立は困難。勉強一本でやって欲しい。
「文武両道をめざす進学校」が生徒によく伝わってない。国立大の進学率ばかり気にしている。
昔は文武両道をめざすに値する生徒が多かった。私たち親が教育活動に関心をもちなければいけない。
先生と生徒の信頼関係が必要。対話が大切ではないか。
おとなしい生徒が多い。生徒の能力や力を信じ、生徒自身で企画、実行させてはどうか。
自分で高校生活の思い出づくりができるような「自発能動」を育てる学校であれば生徒に誇りが生まれる。

(5) その他

体育祭の柳高体操は伝統が引き継がれ、他校にないさわやかな印象。
体育祭の保護者席の位置、閉会式のスタイルについて。
硬式野球部の甲子園出場。
教員の接遇(電話対応、あいさつ)について。
地元でない1年生の保護者としては、なかなか現実が分からない。

の3項目及び生徒からの評価が低かった「学習指導」「地域文化・芸術鑑賞」「環境美化」「ボランティア活動」「教育相談」の5項目について、自由記述の意見・要望等も参考にしながら、重点的に改善策等を検討し、次年度の努力目標、チャレンジ目標、各課・学年の実践項目の立案に生かすこととしている。

さらに、検討した改善策について、「柳高通信」に「学校が取り組むこれからの主な課題」として掲載し、保護者等への公表を行った。(資料2)

2 学校評価の実施による成果と課題

(1) 実施による成果

ア 保護者や生徒による外部評価を実施することで学校の課題等が明確となり、今後の学校運営の充実・改善に大いに役立った。

イ 学校と生徒、保護者との信頼関係の構築、ネットワークづくりに効果的な役割を果たした。

(2) これからの課題と改善方針

ア 本校では平成15年度から地域の人や保護者を対象とした一般公開授業を実施しており、100名を超える人が授業を参観している。学校の情報提供が学校評価の前提であり、さらに多くの保護者や地域の人に来ていただく方策を検討するなど学校と家庭・地域社会との更に密接なネットワークづくりに取り組む必要がある。

イ 家庭や地域社会と連携した学校評価システムの確立を図るために、PTA総会や学年別懇談会、役員会などの機会を利用し学校評価の趣旨等についての理解を図るとともに、評価項目の設定や改善策の検討等に保護者の参加を求める必要がある。

ウ 教職員による自己評価を充実させるために、具体的な数値目標やスケジュール目標等の設定、結果の公表、評価結果の分析方法等についてさらに検討する必要がある。

【資料2】学校が取り組むこれからの主な課題(「柳高通信」より)

- ・今年度の保護者に関する学校評価は、肯定的なAとBの合計の全項目平均が昨年度実施より、12.8ポイント増加しています。23項目中21項目が増加で、最も増加は「学校行事は充実している」で35ポイントでした。減少の項目は、「校則やきまりは妥当である」が1ポイント、「地域文化や芸術の鑑賞する機会」が11ポイントでした。
- ・生徒に関する学校評価も昨年度より8.4ポイント増加で、26項目中21項目が増加しています。大きく減少の項目は保護者と同じ「地域文化や芸術の鑑賞する機会」でした。
- ・まず、「地域文化や芸術を鑑賞する機会」ですが、先日、保護者の皆様には文書で御案内しましたように、10月15日(金)14時から本校体育館で芸術鑑賞会を開催いたします。是非来校して鑑賞してください。また、翌16日は一般公開授業を行います。(中略)
- ・学習面では、「分かる授業」をめざし、指導内容や指導方法について工夫してまいります。
- ・進路指導について、3年生は就職試験が9月中旬から始まり、大学や専門学校の推薦入試が10月から実施されます。1月のセンター試験まで残りわずかとなりました。希望がかなえられるよう学習指導や情報提供をしてまいります。
- ・また、「湧源」の時間に、2年生は10月21日(木)「大学教員の出張講義」、1年生は10月27日(水)「職業人を囲む会」を実施します。
- ・その他、ボランティア活動の推進、校内環境美化の推進等に取り組みたいです。また、生徒・保護者・教員のより良い信頼関係の構築、ネットワークづくりに努めてまいります。

【資料3】 平成16年度前期 学校評価表（生徒用）

山口県立柳井高等学校

記入に当たって

この調査は、本校の現状を明らかにし、学校の教育活動をより充実したものにするための資料とするものです。それぞれの項目について、A～Dのうち該当するものに印を付けてください。

なお、どうしても判断できない（分からない）内容は、印を付けなくてもいいです。

NO	質 問 事 項	回 答			
1	本校は文武両道をめざす進学校である。	A	B	C	D
2	本校には他校にない優れた特色がある。	A	B	C	D
3	本校の教育活動は生徒の希望をくみ取って、計画的になされている。	A	B	C	D
4	授業は分かりやすく、指導内容や指導方法について工夫している先生が多い。	A	B	C	D
5	習熟度別授業（少人数授業）では大いに効果が上がっている。	A	B	C	D
6	早朝学習や個人指導等では生徒の学力向上に役立っている。	A	B	C	D
7	本校では、興味・関心、適性、進路に応じて科目を選択できる。	A	B	C	D
8	「学海」（シラバス：年間授業計画）は十分工夫されており、役立っている。	A	B	C	D
9	学校の評価は、考査の得点だけでなく、生徒の努力や授業に取り組む姿勢等も含まれている。	A	B	C	D
10	本校の校則やきまりはおおむね妥当である。	A	B	C	D
11	校則やきまりについての先生の指導は理解できる。	A	B	C	D
12	生徒は学校の校則やきまりをおおむね守っている。	A	B	C	D
13	本校の進路指導は生徒一人ひとりに対応したきめの細かい指導がされている。	A	B	C	D
14	本校は生徒に進路に関する情報を十分提供している。	A	B	C	D
15	本校の進路について考える場（「職業人との座談会」等）は役立っている。	A	B	C	D
16	自分の将来や進路について考える機会が多い。	A	B	C	D
17	クラスはまとまり、楽しい雰囲気である。	A	B	C	D
18	学校行事は他校にない特色もあり、充実している。	A	B	C	D
19	生徒会活動は活発である。	A	B	C	D
20	部活動は加入者が多く、熱心に活動している。	A	B	C	D
21	本校ではボランティア活動について学んだり参加する機会がある。	A	B	C	D
22	生徒の悩み事や困ったことについて気軽に相談できる先生がいる。	A	B	C	D
23	本校では、地域の文化に触れたり、芸術を鑑賞したりする機会が多い。	A	B	C	D
24	学校の施設・設備は良く整備されている。	A	B	C	D
25	本校では、校内の環境美化に積極的に取り組んでいる。	A	B	C	D
26	生徒は、生き生きとしており、柳高生として誇りを持ち満足した高校生活を送っている。	A	B	C	D

A：そう思う

B：どちらかというと思う

C：どちらかというと思わない

D：思わない

柳高生がさらによくなり、より多くの生徒が“柳高生としての誇り”をもつようになるための良きアドバイスや学校への要望があれば書いてください

【資料４】

平成１６年度前期 学校評価表（保護者用）

山口県立柳井高等学校

記入に当たって

この調査は、本校の現状を明らかにし、学校の教育活動をより充実したものにするための資料とするものです。それぞれの項目について、A～Dのうち該当するものに印を付けてください。

なお、どうしても判断できない（分からない）内容は、印を付けられなくても結構です。

NO	質 問 事 項	回 答			
1	本校は文武両道をめざす進学校である。	A	B	C	D
2	本校には他校にない優れた特色がある。	A	B	C	D
3	本校の教育活動は生徒の希望をくみ取って、計画的になされている。	A	B	C	D
4	習熟度別授業（少人数授業）では大いに効果が上がっている。	A	B	C	D
5	早朝学習や個人指導等では生徒の学力向上に役立っている。	A	B	C	D
6	本校では、興味・関心、適性、進路に応じて科目を選択できる。	A	B	C	D
7	「学海」（シラバス：年間授業計画）は十分工夫されており、役立っている。	A	B	C	D
8	本校の校則やきまりはおおむね妥当である。	A	B	C	D
9	校則やきまりについての先生の指導は理解できる。	A	B	C	D
10	生徒は学校の校則やきまりをおおむね守っている。	A	B	C	D
11	本校の進路指導は生徒一人ひとりに対応したきめの細かい指導がされている。	A	B	C	D
12	本校は生徒に進路に関する情報を十分提供している。	A	B	C	D
13	本校の進路について考える場（「職業人との座談会」等）は役立っている。	A	B	C	D
14	自分の将来や進路について考える機会が多い。	A	B	C	D
15	本校は保護者への連絡や情報提供を積極的に行っている。	A	B	C	D
16	学校行事は他校にない特色もあり、充実している。	A	B	C	D
17	部活動は加入者が多く、熱心に活動している。	A	B	C	D
18	本校の教職員はPTA活動に協力的である。	A	B	C	D
19	生徒の悩み事や困ったことについて気軽に相談できる先生がいる。	A	B	C	D
20	本校では、地域の文化に触れたり、芸術を鑑賞したりする機会が多い。	A	B	C	D
21	学校の施設・設備は良く整備されている。	A	B	C	D
22	本校では、校内の環境美化に積極的に取り組んでいる。	A	B	C	D
23	生徒は、生き生きとしており、柳高生として誇りを持ち満足した高校生活を送っている。	A	B	C	D

A：そう思う

B：どちらかというと思う

C：どちらかというと思わない

D：思わない

柳高生がさらによくなり、より多くの生徒が“柳高生としての誇り”をもつようになるための良きアドバイスや学校への要望があれば書いてください

③ 授業改善に向けた授業評価の実践

山口県立光丘高等学校

1 授業評価実施に向けて

(1) 取り組みのきっかけ

平成14年度の総合学科への学科改編にともない、本校では学校全体のシステムの見直しを行った。そこで、学校評価によって学校運営全般の状況等について評価し、充実・改善を図るとともに、学校生活の中心である授業についても、様々な角度から評価し、充実・改善を図る必要があると考え、授業評価に取り組んだ。

総合学科では、普通科目以外に生徒の興味関心に基づいた学校設定科目を多く設置しており、「何を授業の目的にすればよいのか」「身に付けさせたい学力とは何か」などの学力観をより明確に設定することが必要となり、新たに学力観を設定するとともに、その学力が生徒に身に付いているか検証するために、生徒による授業評価を中心に実施した。

(2) 目標の明確化・具体化

総合学科の教育目標に、「生徒の個性を生かした主体的な学習を通して、学ぶことの楽しさや成就感を体験させ、学習に対する意欲や態度を育てる」と設定しているように、総合学科では、知識・理解だけでなく、学ぶ意欲や体験的な学習活動を重視している。

このような理由から、次のような総合学科にふさわしい学力観や育てたい生徒像を設定した。

本校では、「21世紀の社会で活躍できる人」を「育てたい生徒像」として設定した。

「社会で活躍できる人」とは、夢をもち、自分に自信をもって活動できる人物であり、次の3項目について実践する場を多く設定することにより、自分に対して自信がもてるようになるのではないかと考えた。

ア 自分の意見が言えるようになる

イ 誰とでもコミュニケーションがとれるようになる

ウ 「総合的な学力」を身に付ける

「総合的な学力」とは、次のような学力を総合したものであると考えた。

学ぼうとする力……興味・関心・意欲などを身に付け、生涯学習し続ける力
学び方としての力……情報収集力・情報分析力・論理的思考力・価値判断力など
学んだ力……知識・技術など
学んだものを表現する力……プレゼンテーション能力・文章表現力など

この「総合的な学力」を身に付けるという目標がどの程度達成できたかを評価するために、授業評価を実施した。この授業評価により、学んだ力（知識・技術）に重点が置かれた授業から、総合的な学力を重視する授業への転換を図ることができると考えた。

詳しくは、P.101の本校3年間体系図を参照していただきたい。

学校教育目標

平和で民主的な国家および社会の有意な形成者として誠実にして、豊かな人間性を身につけ未来の社会に力強く対応できる人間形成を目指して、自主的な学習態度 誠実な生活態度 活力に満ちた心身の育成に つとめ、知・徳・体の調和のとれた全人教育に最善を期する

総合学科の目標

生徒の個性をいかした主体的な学習を通して学ぶことの楽しさや 将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせ、心豊か 成就感を体験させ、学習に対する意欲や態度を育てる に主体的・創造的に生きていくことのできる資質や能力を育てる

総合学科のシステムをいかした学習

学ぼうとする力
興味・関心
生涯学習

総合的な学力

知識・理解・技術 論理的な思考
学んだ力を表現する力
プレゼンテーション能力
誰とでもコミュニケーションがとれる
人前で、物怖じせず自分の意見が言える

学んだ力 学び方としての力

育てたい生徒像

社会に出て活躍できる人
自分に自信をつける

総合学科の多様な生徒に対応した
キャリアガイダンスの充実

自問自答する機会を増やす
「これからどう生きるのか」

3年次

キャリアアップ学習

行事等

キャリアガイダンス

卒業研究
論理的思考力
プレゼンテーション能力など
総合的な学力

文化祭・体育大会等行事の
生徒主導化
リーダーの育成
ボランティア活動
朝の読書

LHR + 面談 + 卒業研究
学校見学 面談 マナー指導
小論文指導
面接指導
卒論指導で進路指導

学び方としての力

2年次

上級学校理解

総合的な学習の時間
フィールドワーク
ディベートトレーニング
小論文トレーニング

文化祭・体育大会等行事の
生徒主導化
リーダーの育成
ボランティア活動
朝の読書

総合的な学習の時間 + LHR + 面談
学部・学科研究 面談 マナー指導
学校見学・職場体験 面談
ロールプレイ(面接)
キャリアインタビュー 面談
ガイダンス 面談

学んだものを表現する力

1年次

自己理解・職業理解

産業社会と人間
自己理解
・2分間スピーチ
コミュニケーション能力の育成
職業理解
・講話+発表
・職場体験+発表
プレゼンテーション能力の育成

文化祭・体育大会等行事の
生徒主導化
リーダーの育成
ボランティア活動
朝の読書

産業社会と人間 + LHR + 面談
オリエンテーション マナー指導
宿泊セミナー
自己理解 面談
ガイダンス 面談
職業理解 面談
・職業別講師講話・職場体験・職場見学
ライフプラン 面談

2 具体的な取組み

(1) 評価体制

総合学科の授業観・学力観の検証から授業評価が出発しているため、総合学科を推進する立場であるガイダンス部が中心となって取り組んだ。校長からのトップダウンではなく、ガイダンス部からの提案として始まった。

評価方法は、全生徒が全科目について評価することとした。具体的には、各授業担当者が授業時に評価用紙を配布・回収し、各授業担当者が集計を行った。そして、その結果をガイダンス部が集約し、分析を行った。

(2) 評価の実施時期

まず、学力観・育てたい生徒像を設定した14年度の3学期に、第1回目の授業評価を実施した。そして、15年度は、3学期のみの評価の実施ではその授業に反省がフィードバックされないことから、2学期末テスト前及び3学期末テスト前の2回実施することとした。さらに16年度は、年間を見通してちょうど中間時と最後に評価を実施することとし、2学期中間テスト後及び3学期末テスト前に実施する予定である。

(3) 評価項目

すでに示した本校の目標を達成するために、評価項目2の(4)～(6)に以下のような項目を重点項目として取り入れた。

ア この授業のようなことを将来また学んでみたいと思いますか

イ 表現する力(発表・レポートなど)が身に付く授業でしたか

ウ この授業でどんな力が付いたと思いますか

知識 学習の仕方 技術 もの考え方

「この授業のようなことを将来また学んでみたいと思いますか」を取り入れたのは、学ぼうとする力が育成されたかを測るためである。生涯学び続けようとする力こそ、真の学力であると考えます。

「表現する力(発表・レポートなど)が身に付く授業でしたか」については、学んだものを表現する力が育成されたかを測るためである。学んだものを表現できてはじめて学力が付いたと考えたためである。

「この授業でどんな力が付いたと思いますか」については、学習の仕方、ものの考え方への回答を重視した。なぜなら知識重視の学力観を変更したためである。

このように、本校においては、身に付けさせたい学力から系統的に評価項目を設定しているが、各学校においても、育てたい生徒像・学力観を明確にしたうえで、評価項目を設定する必要があると考えます。

(4) 評価結果

評価結果の主なものについては、P.104のグラフのとおりであるが、2の(3)「興味もてる授業」に「はい」「どちらかといえば はい」の肯定的な評価をした生徒は、14年度の63.0%から15年度は69.4%へと増加している。また、(4)の「将来また学びたい」については、43.6%から50.2%に、さらに(5)の「表現力が身に付く授業」については、42.1%から62.7%に増加している。

授業評価アンケート

総合学科の授業をよりよいものにするために、授業評価アンケートを行いたいと思います。この結果を先生方は、真摯に受け止め、授業改善に心がけるつもりです。生徒の皆さんも、これを機会に自分を見つめ直し、真剣に下記の質問に答えてください。(成績にはいっさい関係ありません)

()年()組 (男 女)()番 氏名()
講座名() 授業担当者() 先生)

次の質問について、あなたが2学期の期末考査までの授業を受けて、感じることを次の中から一つ選び、回答欄にあてはまる数字を記入してください。

1 はい 2 どちらかといえば、はい 3 どちらかといえば、いいえ 4 いいえ

- | 1 生徒のみなさんについての質問(自己評価) | 回答欄 |
|--|-----|
| (1) 予習や復習はしっかりやりましたか。 | () |
| (2) 試験前の勉強はしっかりやりましたか。 | () |
| (3) 授業に真剣に取り組みましたか。 | () |
| (4) 課題や提出物をきちんとやりましたか。 | () |
| 2 授業担当者についての質問 | |
| (1) 先生は十分準備し、意欲的に取り組んでくれましたか。 | () |
| (2) 授業は分かりやすかったですか。 | () |
| (3) 授業の内容は興味のもてるものでしたか。 | () |
| (4) この授業のようなことを将来また学んでみたいと思いますか。 | () |
| (5) 表現する力(発表・レポートなど)が身に付く授業でしたか。 | () |
| (6) この授業でどんな力が付いたと思いますか。(複数回答可) | |
| 知識 学習のしかた 技術 もの考え方 () | |

3 上に回答したほか、この授業で感じたことをなるべく具体的に書いてください。

4 改善した方がよいと思われる点を書いてください。

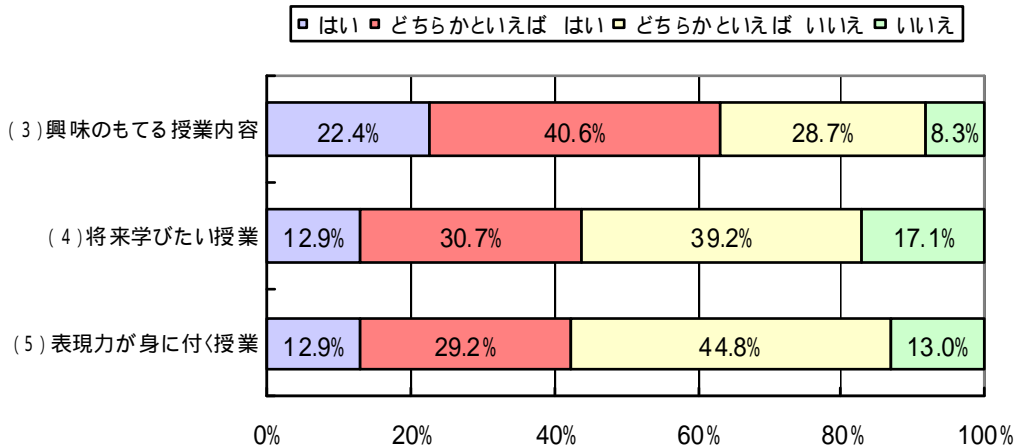
5 授業の内容で、もっと深く学びたかったことや教えてほしかった事を書いてください。

また、(6)の「授業で付いた力」については、「知識」が57.6%から53.3%へ減少し、「学習の仕方」が9.5%から14.7%へ増加している。

これらのことから、本校で育てたい学力観が各教員に浸透し、授業が実際にそれをめざして行われており、生徒もそれを実感しているのではないかと思われる。

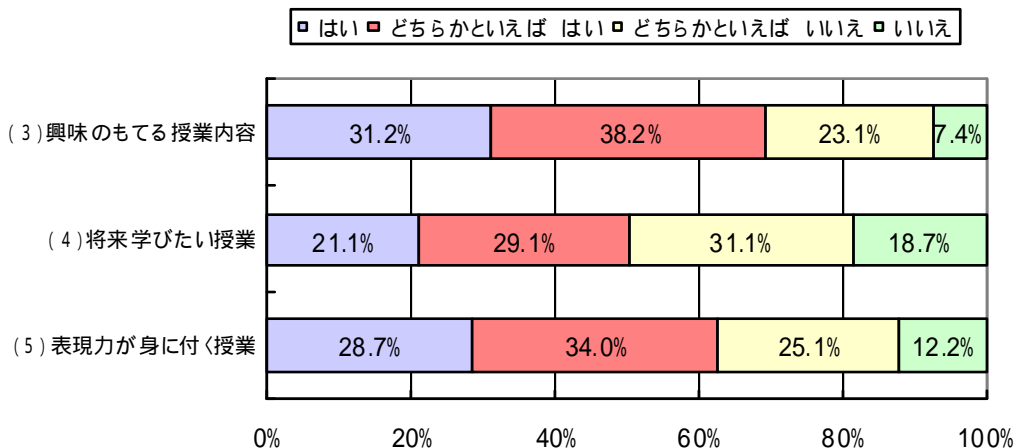
(14年度の結果)

H14年度3学期末授業評価結果(1~3年次生 全科目集計)



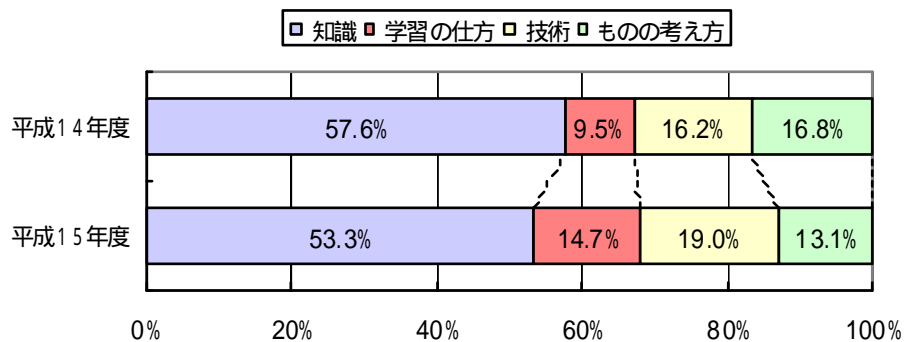
(15年度の結果)

H15年度3学期末授業評価結果(1・2年次生 全科目集計)



(「授業で付いた力」の変化)

2-(6)「授業で付いた力」の年度間比較



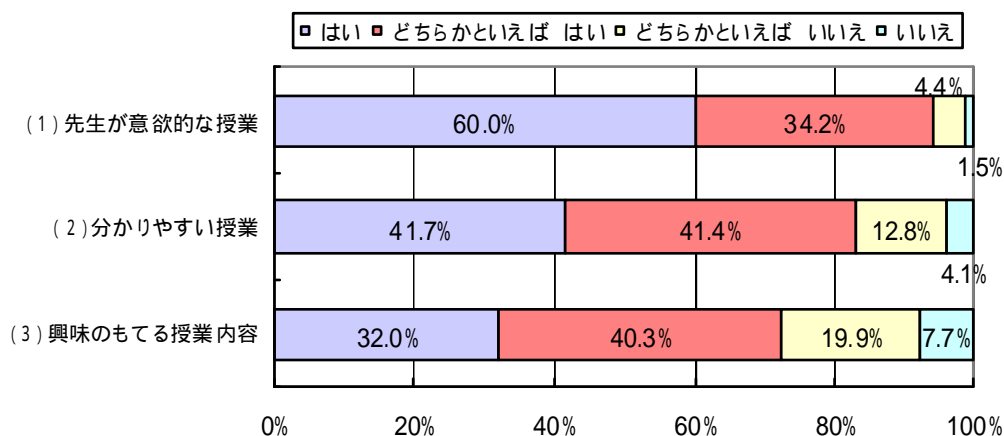
(5) 評価基準

平成16年度から、学校運営3か年計画で、授業に対する生徒の肯定的な評価を80%以上にと設定した。具体的には、2(1)「先生は十分準備し、意欲的に取り組んでくれましたか」、2(2)「授業は分かりやすかったですか」、2(3)「授業の内容は興味のもてるものでしたか」という項目で、「はい」と「どちらかといえば、はい」と答えた生徒を80%以上になるようにする。

また、2(4)「この授業のようなことを将来また学んでみたいと思いますか」、2(5)「表現する力(発表・レポートなど)が身に付く授業でしたか」、2(6)「この授業でどんな力が付いたと思いますか」(知識 学習の仕方 技術 もの考え方)の重点項目についても、数値目標は設定していないが、それぞれ肯定的な回答の割合を年次的に上げていきたい。

平成16年度2学期中間時点での結果は以下のとおりとなった。学校運営3か年計画で、肯定的な意見80%以上を目標にしたが、現時点では項目2(1)、2(2)は目標を達成している。2(3)は72%であるが、H14、H15年度に比べて、少し増加している。3学期末には目標を達成したい。

H16年度2学期中間授業評価結果(1~3年次生 全科目集計)



(6) 評価結果の公表・情報提供

現在のところ、各学年全体の評価結果のみを公表し、科目ごとの評価結果までは公表していない。科目別の集計結果の公表は現在検討中である。

おもな公表先は、PTA総会・学校新聞(校長作成)で保護者に、また学校評議員会で学校評議員に公表している。地域には、「総合学科通信(P.106参照)」により、近隣中学校(35校)・地域(新聞社等15か所)に公表している。

3 授業評価の実施による成果と課題

(1) 実施による成果

実際に授業評価を行ったことで、教員が個人レベルで自分の授業を見直し、授業改善に役立っていると考えられる。発表やレポート作成、また体験を重視する授業も増え、教員一人ひとりの授業に対する意識が、少しずつではあるが、変化していると思われる。実際にアンケートの結果を見ても感じることができる。

1年次生 職場体験実施 今年度から、アポイント・事前打ち合わせも生徒で・・・



2年次生 キャリアアップ学習 フィールドワーク発表会・面接ロールプレイング



社会に出て自分の足でデータを集めることを通して、オリジナルな主張・根拠の大切さやマナーを身に付けることをねらいとしてフィールドワークを実施しました。左上の写真はそのままの発表会のものです。また、右上の写真は、面接官を体験することで何が面接で大事なのかを理解するためにロールプレイングを行っている模様です。

生徒会による募金活動



新潟県中越地震をうけて、本校でも募金活動を行いました。

全学年 進路講演会



エフエムきらら代表取締役 井上 悟先生に、「夢実現の方程式」という講話で、講演をしていただきました。

授業評価アンケート結果 (全学年全生徒・2学期中間時)

先生は十分準備し、意欲的に取り組んで授業はわかりやすかったですか



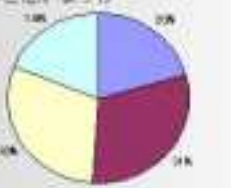
比較的よい結果？



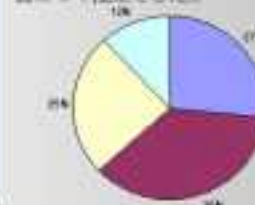
授業の内容は興味のもてるものでしたか



この授業のようなことを将来また学んでみたいと思いますか



表現する力(発表・レポートなど)が身につく授業でしたか



この授業でどんな力がついたと思いますか



(2) これからの課題と改善方針

ア 授業公開週間の設定

教員一人ひとりの個人レベルでの意識の変革は起きていると思われるが、上記の結果を見ると、まだ2年目でもあり、大幅に向上しているとは言えない。各教科での授業参観、授業研究や研修会を行い、授業のノウハウの交換等、さらなる教員個人のスキルアップが必要であると考えます。

平成16年度3学期以降は、授業ノウハウの交換を目的として、「授業公開週間」を設定することとした。これは、各教員が自分の見たい先生の授業を自由に見に行くことができるようにすることである。このような期間を設けることで、お互いに啓発され、授業の質の向上が図られると考える。

イ アンケート用紙の改善

無記名方式

本校では「評価に責任をもたせる」という趣旨から記名方式をとっているが、生徒の本音が出しにくいという声もあり、記名か無記名かについては検討の余地が残る。

評価項目の精選

評価項目を一度設定すると、変更することがむずかしい。変更すると年度間の変化を見ることができないので、最初によく検討して設定する必要がある。

評価基準に中間項目の設定

「はい」「どちらかといえば、はい」「どちらかといえば、いいえ」「いいえ」の4段階で評価しており、中間項目「どちらでもない」を設定していない。どちらか立場をはっきりさせることを意図して4段階に設定しているのであるが、「分からない」などの項目を設定することも含めて検討が必要である。

集計方法

全科目・全教科で授業評価を実施しているため、評価表配布作業、実施作業、集計作業など膨大な作業量になる。学校評価、授業評価等を実施するに当たり、集計用フォーマットを作成するなど集計作業の効率化、省力化が必要である。

公表

各学年や学校全体でまとめて集計し、公表しているが、各科目ごとには公表していない。生徒には、各教科ごとに集計したものを公表する必要があると考える。学習の主体である生徒に評価結果を返し、よりよい授業づくりにつなげていきたい。

また、結果だけでなく、結果に基づいた改善や新たな取組みも公表する必要がある。

学校生活においては、授業が中心であり、その授業に対する評価を積極的に行うことが学校の改善にとって大変重要であると考えます。

本校では、学校教育目標や重点目標に沿って、「21世紀に必要な学力観」及び「育てたい生徒像」を設定し、それらの実現に向けて実践に取り組むとともに、目標の達成状況についての評価活動に取り組んできた。

今後も、目標の実現に向けて、個人レベルの授業改善だけでなく、よりよい学校づくりに向けて、学校全体で組織的、計画的に学校評価や授業評価に取り組んでいきたい。